

平成 2 2 年 ふれあい座談会

主 催	ふじみ野市
テ ー マ	大井総合支所の再整備について
日 時	平成 2 3 年 1 月 2 2 日(土)・午後 3 時 ~ 4 時 4 0 分
場 所	大井総合支所 第 2 庁舎 3 階 第 1、2 会議室
参 加 者	7 5 名
市	市長、副市長、総合政策部長、秘書広報課長

(市長あいさつ・市長説明 省略) 以下は主な質疑です。

参加者：西地域の町会連合会としては、なぜ消防がここに来るのが理解できなかったが、先日の町会自治会連合会の新年の集まりの際に、市長は「村上会長ほか役員の皆さまにこの件について了解を得た」と言った。それが本当だとしたら、わたし達が異議を申し立てたことは、時系列的におかしなことになると思い、村上さんに確認したところ、「白紙撤回は無理という話は受けたがこちらとして了解したという内容ではなかった」とのこと。市長は一体何を根拠に「了解を得た」と言ったのか。

市 長：ご了解いただいたという認識は今現在もありません。その時に申し上げたのは、ご理解、ご協力をいただいているということ述べたつもりでした。言葉足らずで申し訳なかったと思っています。その時には「やるのなら良くしてくれ」ということで承らせていただきました。

参加者：一昨日の市民検討会議でも、町会からは白紙撤回を求められているが、正副会長にはご理解いただいていると言っていた。こういう発言が非常に誤解を生んでいる。

市 長：ご指摘については貴重なご意見として受け取らせていただきますが、ご理解という言葉は使っていないと思います。白紙撤回を求められていたが、その後議会で検討していただき、条件付きでの回答が出たので、その結果をご報告する主旨で市役所にお越しいただきました。

参加者：西地域の連絡会議では住民の意見を吸い上げようということで活動している。住民主体という観点でやっている。市長も住民主体と言いながら、12月1日に実施した座談会の際には、もう既に議会が賛成しているのだからいいだろうという考えでいたのだろう。12月1日に誠意を持ってこれから取り組んで行くと言ったときながら、12月3日には相手に返事をしている。住民主体と言いながら現実とは全然違う。市長のまち

づくりビジョンは分かるが、やっている行動は全然まったく違う。自分の中で、どうしても理解できない。

市長：10月15日頃を目途に返事をくれという、あまりにも検討期日が短いところを何とか延ばしてもらおうということでやってきましたが、決断する時期を誤ってしまうとたくさんのデメリットが生じてしまうという懸念がありました。3日の返事については、12月議会に決まらなければ次は3月になってしまいますので、そのリミットということで決断に至りました。

参加者：スケジュール的にはそうでしょう。流れはそうかもしれない。だが、それは市民主体ではない。12月1日の座談会の時に、決断するという腹でいたんだろう。それならば、そう言ってくれば良かった。本音を言ってくれないからわだかまりができています。

市長：議会からもらった答えは、西側民地を活用するという条件付きだったので、それを消防組合に伝えたという状況です。消防組合がその条件をどう判断するのかという部分もありました。自分自身の考えとしては、12月1日以前からそうしたいという思いはありました。

参加者：大井総合支所の再編と消防署の問題は、どこをどう考えても繋がらない。消防のもろもろの問題は理解しているし、総合支所の耐震問題や合併したことによる重複した施設の問題など、どれもこれも理解はしている。だから今日の説明の内容についても前半は賛成。だけど、そこにいきなり消防の話が入ってきた。順番が逆。まずは、総合支所の整備のためにどれだけの土地が必要なのかを検討した上で、その後に消防の話が出てくるべき。余剰が出て即、消防へということじゃなくて、先々のためにとっておく方法だってある。それらの中の選択肢の一つが消防ということなら理解できる。そうなった時に、次は住民に説明をしてコンセンサスを得るといのがきちとした手順だ。だから、一回リセットして一からみんなで考えましょうというのが私たちの主張だ。

市長：指令台のことが出てきた時に支所の窓口機能の充実については既に考えていたが、支所の建て直しについての構想はありませんでした。高齢化が進む中で両庁舎を潰して中心部に新庁舎を造れるほどの財政的余裕はありません。140億ほどの税収で320億もの予算を立てようとしています。持続可能なふじみ野市にしていくためには、よそに住民が流れていかないふじみ野市にしなければなりません。子育て世代に何とか住み着いてもらわなければいけません。少しでも生産年齢人口を増やしたいのです。これからの将来を維持していくために議会も賛同しています。限られた検討期間の中でご理解いただくのに難しい部分はありま

したが、この計画は本当に市民の利益に繋がることなので、ご理解いただきたいと思います。

参加者:この計画を聞いて羨ましく思う。すばらしいプランだと思う。自分の地域にも欲しい。これまで10年間も計画が進まなかったのは、近隣住民の反対があったからなのか。

市長:一部事務組合を編成している中でさまざまな問題やかけひきがあったことが経緯です。今回の件は地域的なエゴなどを出している場合ではない中で話がまとまったということです。

参加者:12月1日の会議の時に消防署の人が来ていたという話と、もう既に消防からお金をもらっているという話が出ているが実態はどうなのか。

市長:消防の経験がある人は参加者として来ておられましたが、消防からお金などももらっていません。

参加者:なぜ、ここでなければダメなのか。

市長:消防行政は2市1町でお金を出し合っているものです。その消防の組織の中で、出勤のしやすさ、距離的な観点から、どこの場所に置いたら効果的で効率的なのかについて検証して出した結論です。

参加者:私はすべてこの説明会に参加している。来てみると消防の話ばかり。地域のみなさんは本当にこの話を知らない。8月に消防から話があったらまず住民に話すのが筋。議員に聞いても知らないという。ここはシビックゾーンとして、地権者からその当時高額で土地を購入している。賛成者などほとんどいないはず。それをいけいけドンドンで市民目線なんかそっちのけ。消防署と子どもの施設の複合施設など例はあるのか。危なくて子どもを遊びに行かせることなどできない。お金が無くて土地を売りたいのならもっと違う方法があるだろう。何もこの青写真がないままでは納得がいかない。

市長:このことを聞いて「知らない」という議員はおかしいと思います。議員全員協議会で説明もしていますが、反対意見はまったく出てきていません。過去においてこの地域をつくってしてくれた皆さんには心から感謝しています。売却というよりは土地の名義が変わるだけなのです。消防組合から支払われるお金はふじみ野市からも出ているし、負担金も一番出しているのです。よその組織に売り払うということではありません。そして、今回は消防から依頼があったので支所の再整備が可能ですが、この話が来なければ建て替えはできません。ご理解ください。

参加者:市長を頼っているからこういう話になっている。地元の方が訴えているこの声も議員に伝えて解決策を考えてもらいたい。ここに来れば詳しい話も聞けるが、全体的にPRの方法が下手だと思う。地域は苦しんでいる。業務拡大以外にももっと大事なサービスがあるはずだ。広報だけでなく、特版でも組んでもっと情報を発信すべき。本庁周辺ではこんな意見は出ない。この地域の人たちの心を受け止めてもらいたい。

市長:使命は本当に重いし大きいと思っています。私自身も努力して皆さんの声を受け止めていきたい。

参加者:本音をきちんと話して欲しい。その上で「皆さん、協力してください」と言えばいい。市長は行政と議会とだけでは決めたくないと言っていた。市民が主役という理念を掲げていたが、この状況では市民はエキストラだ。主役と言うのなら主役として立ててもらいたい。それと、議員にも後で確認するが、議会と一致した点というのは何か。

市長:基本的には厳しい財政状況の下、ますます高齢化が進む中で、本庁も支所同様に老朽化していますが、こちらのような整備の話はまったく目処が立っていません。そんな状況ですが消防署との関連からこちらの支所の整備に着手するのは効果的な方法だという認識だと思います。この話は市民の利益に必ず通じるものだと信じています。

参加者:この話は一過性の話だ。これで一時を凌いでも駄目なんだからみんなで我慢するしかない。議員や職員の経費も削減し、町会費も期間限定で削減してもらってかまわない。まずは我慢が大事。一過性の施策では乗り切れないのだから。

市長:この計画を実施しても我慢はしていただく必要があると思っています。毎年多額な施設修繕費を要する中で、新設した方が有効な場合があるという判断で今回はこの決断をしました。「子どもにつけをまわさない」という政策の中で、今後、皆さんには受益者負担をお願いすることも出てくると思います。平成22年度は行政経費を削らせてもらいましたが、補助金などについては削れませんでした。これから、子ども手当や感染症対策経費など膨大な経費がかかる中で、我慢をしていかなければならないというのは、私もまったく同感です。